

人材育成支援無償（JDS）における留学生受入活動計画書(サンプル)

独立行政法人国際協力機構 御中

平成 年 月 日
 ○○大学大学院 ○○研究科
 (代表者役職、氏名)

国名：
 サブプログラム名：
 コンポーネント名：
 受入計画数/年：

留学生の目標		活動内容	特別プログラムの場合 チェック	活動項目*
目標1				
目標2				
目標3				
目標4				

* 特別プログラムの活動項目

①	国内外における特別講義、セミナー、ワークショップ等の開催
②	留学生出身国におけるセミナー等の開催（来日前・帰国後留学生対象）
③	教育、研究に必要な資料の整備
④	大学での指導/研究補助、補足教育の実施

※受入提案書及び専門面接における先方政府との意見交換を踏まえ、作成をお願いします。□
 なお本活動計画書は各年度に作成いただく向こう6ヶ年「年度計画書」の基礎となる計画書となります。

※活動計画の内容を途中大幅に変更する必要がある場合には、実施代理機関にご連絡の上、変更後の活動計画書を改めて作成願います。

<参考：予算について>

(!) 各年度上限額は、1バッチ当たりの受入人数を右枠内に入力することで下表に表示されます。⇒ 1 名

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
各年度上限額	250,000	750,000	1,000,000	1,000,000	750,000	250,000
【参考】協力期間6年間上限額	4,000,000					

(注) 留学生の滞日期間に応じて一人当たり年間50万円（半期在籍各25万円/来日・帰国年）を上限に特別プログラム上限通知を行います。各年の無償資金予算の影響により、変更の可能性があります。

人材育成支援無償（JDS）における留学生受入活動計画書(サンプル)

独立行政法人国際協力機構 御中

平成 年 月 日
 ○○大学大学院 ○○研究科
 (代表者役職、氏名)

国名：
 サブプログラム名：
 コンポーネント名：
 受入計画数/年： 2人

留学生の目標		活動内容	特別プログラムの 場合 チェック	活動項目*
目標1	○○に関する基礎知識を習得し理解を深める。	基礎講義に備え、大学側より留学生来日前に課題を課し、メールまたは現地において来日前事前研修を行う。	○	②
		ティーチングアシスタントをつけ、受講の支援を行う。	○	④
目標2	○○に関する課題分析能力と実践力を身につける。	日本の村落においてフィールドトリップを行い、○○調査及び○○との意見交換を通して、日本の○○な経験と課題分析力を身につける。	○	①
		○○などの学会に参加し、○○の知見をさらに身につける。	○	①
		海外より講師を招聘し、○○分野についての先進的事例を習得すると共に自国の課題を客観的に分析する能力を身につける。	○	①
目標3	論文作成を通じ課題に対する解決策を考察する。	途上国の○○に関する英文図書を購入する。	○	③
		修士論文作成のためのアカデミックライティング講習を実施する。	○	④
目標4	研究成果の活用	留学生帰国後、実際の業務における課題を解決できるよう、帰国留学生及び対象機関を対象としたセミナーを開催する。	○	②
		JDS生の研究成果について、特に優れた留学生についてジャーナルに掲載し、留学生所属機関と共有化を図る。	○	③

* 特別プログラムの活動項目

①	国内外における特別講義、セミナー、ワークショップ等の開催
②	留学生出身国におけるセミナー等の開催（来日前・帰国後留学生対象）
③	教育、研究に必要な資料の整備
④	大学での指導/研究補助、補足教育の実施

※受入提案書及び専門面接における先方政府との意見交換を踏まえ、作成をお願いします。□
 なお本活動計画書は各年度に作成いただく向こう6ヶ年「年度計画書」の基礎となる計画書となります。

※活動計画の内容を途中大幅に変更する必要が発生した場合には、実施代理機関にご連絡の上、変更後の活動計画書を改めて作成願います。

<参考：予算について>

(!) 各年度上限額は、1バッチ当たりの受入人数を右枠内に入力することで下表に表示されます。⇒ 1 名

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
各年度上限額	250,000	750,000	1,000,000	1,000,000	750,000	250,000
【参考】協力期間6年間上限額	4,000,000					

(注) 留学生の滞日期間に応じて一人当たり年間50万円（半期在籍各25万円/来日・帰国年）を上限に特別プログラム上限通知を行います。各年の無償資金予算の影響により、変更の可能性がございます。